

落家の
集いの
鉢語ら

「雪国に生きて」ファイナル展

来月3日から、尾身ミノさん宅で

「雪国に生きて語らいの家ファイナル展」が来月3日から7日まで、市内鉢の尾身ミノさん宅（石仏語らいの家）で開かれる。

語らいの家はミノさんが集めた民俗資料を、闘

ゆかりのある仲間が集まり、訪れた人々や地域の人たちとの交流を続けてきた。

ミノさんは1930年（昭和5年）鉢生まれ。木曳き職人の夫を早くに亡くし、女手1つで農業や子育てをしながら、日々の暮らしを文集「らぐがき」に綴り、十日町市博物館友の会民俗グループの一員としても活躍した。

文集「らぐがき」は1963年から2007年まで、鉢集落の女性を中心に作られていた文集で、冬の厳しさ、地域や

社会への批評、暮らしの中の小さな幸せなどが率直な言葉で綴られ、鉢の人たちが歩んだ約半世紀が、等身大の姿で書きとどめられている貴重な資料だ。

ミノさん宅を、まると民俗資料展示室として2008年から活動してきたが、今回がミノさん宅で行う最後の資料公開となる。

入場無料で、詳細は門脇さん（電話090-2312-9685）へ。



雪消し作業を行う尾身ミノさん（金尾良子氏撮影）